

【月案】12月・0歳児

今月の保育のポイント

- 今まで食べていたものを食べなくなるなどの偏食が出る時期。細かく刻んで気づかないようにするなどの給食室との連携も必要。無理に食べさせるとその後嫌いになってしまうこともあるため注意。
- 風邪が流行る時期なので、ぼーっとする、あくびをしている、目が涙目になっているなどの細かい異変を特に観察し、病気の早期発見に努める。
- 子どもが何となく良く動きたそうな日は、気持ち良い原っぱで遊ぶなど、遊びの環境はその日の子どもの状態によって決める。特に散歩のときは散歩先がどうなっているかを知っておくと良い。他団体などで大人数いて危険がないか、もしそうなった場合何処に変更するか、地面はぬかるんでいるか、地域のイベントが行われているか等。地面が大きな水たまりがある場合は逆に楽しむチャンスにもなる。どんな環境で、どれくらいの時間でどんな遊びを広げられるかを保育者間で普段から連携し合っておくとスムーズに進められる。
- 葉っぱや砂など色々なものに興味をもって口に入れることもあるが、すぐに口の中をゆすいであげると良い。大半は食べてはいけけないものと感覚的に学習してその後やらないので、大きく心配することはない。
- 気に入らないと噛みつく、噛みつきも見られてくる時期。立って歩けるようになってくる頃から良く見られるので気にかけておく。噛みつきそうになった場合は叱らずに保育者が離し、その子どもの要求を受け止めながら援助する。

月のねらい

- 一人ひとりの健康状態を把握し、寒い時期を快く健康に過ごす
- 冬の外気に触れながら、身体を十分に動かして遊ぶ
- 自分の行きたいところへはったり、つかまり立ちや一人歩きをしたりする等、全身を使って探索活動を楽しむ。
- 保育者と一緒に、人や動物等の模倣をして楽しむ。

週のねらい

その1

- 1週目：友達と一緒にいる心地良さを感じる（教育）
- 2週目：保育者や友達と馴染みの場所で安定して過ごす（養護）
- 3週目：クリスマス会の歌や踊りに合わせて声を出し、身体を動かして楽しむ（教育）
- 4週目：心と身体を動かしながら、年末を健康で過ごす（教育）

その2

- 1週目：室内の温度や湿度に注意して、寒い時期を健康に過ごせるようにする（養護）
- 2週目：体を動かして遊ぶ楽しさを知る（教育）
- 3週目：歌や楽器遊びを通して音楽に親しみを持っていく（教育）
- 4週目：言葉やしぐさから要求を受け止めて、満足感を得られるようにする（養護）

その3

- 1週目：室内外の温度や湿度に留意されながら、健康に過ごす。（養護）
- 2週目：喃語や仕草で自分の要求を表現し、保育者と心地よいやりとりを楽しむ（養護）
- 3週目：音楽やリズムに興味を持ち、体全体を使って表現することを楽しむ（教育）
- 4週目：自分のペースで歩行やハイハイを楽しみ、周りの環境に興味を持つ（教育）

その4

- 1週目：食事や生活のリズムを整えながら、体調管理に配慮して過ごす（養護）
- 2週目：保育者とのやりとりを通じて、自分の気持ちや要求を少しずつ表現する（養護）
- 3週目：歌や手遊びを楽しみ、体を動かしながら音楽に触れる（教育）
- 4週目：自ら手を伸ばして探索し、興味のある物に触れたり遊んだりする（教育）

前月末の子どもの姿

養護（生活）

- 水分の少ないおかずを残してしまう、咀嚼が苦手な子どもは食べることを拒む。
- 苦手な食べ物だと口から出したり、嫌がる様子を見せる。
- 食べたことが無いものでも、一口食べて気に入れば全部食べる。
- 自ら手づかみで食べようとする様子が見られる。
- 朝受け入れ時などの不安定な様子が減ってきている。
- おむつが汚れると気づいて保育者に喃語で知らせる子どもがいる。
- 寒暖の差が激しく、体調を崩す子どもがいる。
- 目覚めてもオムツが濡れていない子どももいる。
- スプーンを使うことに興味を示し、保育者に援助されながら挑戦する姿が見られる。
- 保育者を真似て、食事のエプロンを付けたり、靴下を脱いだりする姿が増えた。
- 保育者の声掛けで、便器に座してみようとする子どもがいる。
- 保育者との関わりや触れ合いを通して、情緒を安定させて過ごすことができています。

教育（遊び）

- 歩行が安定してくる子どももあり、他の子どももつかまり立ちが安定している。
- 歩行が安定している子どもは手をつないで短い距離ならば散歩することができた。
- 犬や車を見て「わんわん」「ぶーぶー」などの言葉を出す様子が見られる。
- 砂の中に座り込んで感触を楽しんでいる様子が見られる。時々口の中に入れてしまう子どももいる。
- 周りをハイハイなどで動いて色々散策する様子が見られる。
- 座ってじっとひとつの所を見つめ、物事や事象に興味をもっている。
- 手遊びを喜び、保育者の真似をしたり、体を揺らして楽しんでいる。
- 指差しが盛んで、保育者に見つけたものを指し示す姿が見られる。
- つたい歩きや歩行等、活発に動くようになったことで、転倒等による小さな怪我が増えた。
- 友だちへの関心が高まり、玩具の取り合いも見られる。
- 外靴を履いて歩くことに慣れ、園庭では自分で歩くことを楽しむ姿が見られた。
- 保育者や友達と一緒に絵本を楽しみ、指差しをしたり声を出して興味や関心を示す場面もあった。
- 保育者の言葉や仕草を真似しながら、簡単な模倣遊びを楽しむ姿が見られる。

活動内容（3つの視点対応）／環境構成と援助

養護（生活）

- **活：**苦手なものが残ってしまわないように、好きなものと一緒に食べるなどの工夫をしながらバランスよく食事を取る。（健やか）
環：給食室と連携し、苦手なものを刻んでもらうなどの工夫を行う。食事が進まず嫌がる時は、無理強いせず ゆったりと関わりながら進める。
- **活：**いろいろなものが食べられる楽しさに気づくよう、保育者が目の前で美味しそうに食べて子どもの食わず嫌いを軽減する。（健やか）
環：食べこぼしで著しくテーブルやよだれかけが汚れたら、取り換えて気持ちよく過ごせるように配慮する。
- **活：**スキンシップを大切にし、安定して快の状態を長くいられるように過ごす。（健やか・ヒト）
環：不安定からの切り替え、1日通して安心して過ごせるよう、スキンシップを大切にし ゆったり関わる。
- **活：**おむつが汚れて不快の気持ちを保育者に表して知らせる。（健やか）
環：おむつ交換を知らせてくれたときは、その姿を認める。衣服の着脱やおむつ交換を嫌がる時は、好きな人形やおもちゃを使いながら手早く済ませる。
- **活：**栄養や休息を十分に取り、生活リズムを安定させ過ごす。（健やか）
環：空腹感を感じてご飯を食べるサイクルができるように、活動の時間や環境を安定させる。自分で食べたい気持ちを大切に、手づかみでもしばらく見守るようにする。
- **活：**ひと口の適切な量をよく噛んで食べる。（健やか）
環：子どもの食べようとする気持ちを認め、取り皿に少量ずつ食材を入れ、子どもが適切な量口に入れられるように調整する。
- **活：**心地よい疲れと共に入眠し、身体のバランスを整える。（健やか）
環：午前中の生活を調整したり 普段の睡眠の時間を保護者と共有しておき、子どもの適切な睡眠につなげる。
- **活：**生活動作を少しずつ自分でやってみようとする。（健やか）
環：ズボンから履くなど、生活動作をルーティン化させて子どもが習慣化しやすいようにする。
- **活：**保育者に手伝ってもらったり、見守られたりしながら、フォークや手づかみで自分で食べようとする。（健やか）
環：一人ひとりの食事の状況に応じて「おいしいね」「これ食べてみようか」等声掛けをし、楽しく食べられるようにする。
- **活：**保育者にオムツを替えてもらうことで、気持ちよさを感じたり、オムツが濡れていない時に便器に座ってみようとする。（健やか）
環：タイミングを見て「オムツが濡れているね」「トイレに行ってみようか」等声を掛け、オムツ交換や排泄の援助をする。
- **活：**快適な保育室の中で、活動しやすい服装で過ごす。（健やか）
環：室内外の温度や湿度、換気に留意し、過ごしやすい保育室の環境をつくる。必要に応じて加湿器や空気清浄機を使用し、快適に過ごせるようにしていく。
- **活：**自分で石鹸で手を洗ったり、保育者に洗ってもらいながら、清潔になった心地よさを味わう。（健やか）
環：自分で洗おうとする気持ちを受け止め、さりげなく援助しながら、さっぱりとした気持ちよさと達成感を感じられるようにする。
- **活：**身振りや言葉で保育者に思いを伝える。（ヒト）
環：子どもの思いに優しく丁寧に応答しながら、思いが伝わる安心感や喜びを感じられるようにする。

- **活：**自分で帽子や靴下を身につけようとする。（健やか）
環：「寒いね、帽子をかぶってみようか」と優しく声を掛けながら、子どもが自分でやろうとする姿を援助する。できた時には「すごいね、あったかいね！」と褒めて、達成感を感じられるようにする。
- **活：**自分でコップを使って飲み物を飲もうとする。（健やか）
環：「お茶を飲んでみようか」と声を掛けながら自分で飲もうとする気持ちを持てるようにする。初めは手を添えて援助しながら、自分で飲もうとする姿を見守る。

教育（遊び）

- **活：**戸外で自ら色々動き、探索する楽しさを味わう。（健やか・モノ）
環：戸外遊びや散歩に出かけるときは、子どもの様子を見ながら、遊ぶ場所や時間帯、環境を保育者感で連携し合って考える。三輪車などの乗り物に興味を示す子どもには、十分周りを注意しながら遊べるようにする。
- **活：**物や人、事象に興味を示し、指差しと発声で保育者に伝える。（モノ・ヒト）
環：子どもが新しい興味を示せるように行動から結果の出る遊びや玩具、掴んで引っ張る遊びや押すと出るしかけの玩具を用意する。子どもの発声や指差し等のコミュニケーションを拾って言葉につなげていく。
- **活：**戸外では砂や草、石などの感触に沢山触れ、十分に楽しむ。（モノ）
環：いろいろな自然素材に触れ、何か言葉などの反応を示したら共感し、丁寧に受け止める。
- **活：**保育士との触れ合い遊びを楽しみ、「もう1回」と伝え繰り返し遊ぶ。（ヒト）
環：毛布でハンモックを作り揺らすなど、触れ合い遊びの環境をいつでもできるように整える。
- **活：**絵具や色水に興味を持ち、少し触れてみようとする。（健やか・モノ）
環：無理強いをせず、保育者や他児が遊んでいる姿を見ることで少しずつ興味をもてるようにしていく。活動中は口に入れないように注意して見守る。
- **活：**保育士に追いかけられたり、走る楽しさを味わう。（健やか・ヒト）
環：「まてまて」など、言葉を使いながらのびのび走れるようにする。
- **活：**絵本や手遊びなどの模倣を楽しむ。（ヒト）
環：子どもの興味をもった絵本を選んで読む。繰り返し出てくるフレーズと一緒に口ずさむなど、一緒に楽しめるようにしていく。
- **活：**巧技台を使用し、ハイハイで上り下りをしたり、歩いたりする等、体を動かして遊ぶ。（健やか・モノ）
環：ハイハイやつたい歩き等で、十分に体を動かして遊べるスペースを確保する。子どもの目線に合わせて周囲を確認して危険箇所がないか点検し、自由に遊べる環境を整える。
- **活：**喃語や片言を優しく受け止めてもらいながら、保育者とのやり取りを楽しむ。（ヒト）
環：表情豊かに話したり、簡単な絵本を用いながら、一対一の関わりの中で言葉のやり取りを楽しめるようにする。
- **活：**保育者の歌や音楽に合わせて、体を揺らしたり、手足を動かして楽しむ。（ヒト・モノ）
環：保育者も一緒に歌を歌ったり、踊ったりしながら、体を動かすことの楽しさを感じられるように声掛けをしていく。
- **活：**保育者に見守られながら、好きな遊びを見つけ、一人遊びを楽しむ。（健やか・モノ）
環：子どもが興味を持てるような玩具を目に付くところに置く。子どもが何に関心を持ち、どのような遊びを好むかを観察し、一緒に遊ぶ中で探索意欲を満たす。
- **活：**保育者と一緒にボール遊びを楽しみ、投げたり転がしたりして遊ぶ。（モノ）
環：柔らかいボールを複数用意し、室内で安全に遊べるスペースを確保する。保育者が一緒にボールを転がしたり、投げたりして遊びの楽しさを共有し、子どもが自発的に動かせるようにしていく。
- **活：**保育者と触れ合い遊びを楽しみ、簡単な模倣遊びを楽しむ。（ヒト）
環：子どもが模倣しやすいよう、保育者はゆっくりと動作を見せながら声を掛けて進める。簡単

な動作を一緒に行いながら、子どもができたことに対して「すごいね、できたね」と楽しさや喜びを共有する。

- **活：**絵本や紙芝居等を読んでもらうことを楽しむ。（ヒト・モノ）
- 環：**子どもが自分でめくりやすい厚地の絵本も用意しておく。絵本を読むときには、ゆったりとした雰囲気の中で絵や物語を楽しめるように関わる。

健康、安全面で配慮すべき事項

- 転倒したときに重大な危険のないよう、段差の上り下りや高低差のある場所、転倒先に硬い鋭利なものなどないか見ておき、安全に配慮する。
- 感染症の時期なので、各種保険連携機関の確認や病気の初期症状に対する理解を深める。
- 玩具を口に入れたりするため、常に消毒し、破損がないか点検する。
- 安全で活動しやすい空間の中で探索活動が十分にできるよう、遊具の置き場所や棚の位置を適切に環境を整える。

今月の製作・歌・絵本・手遊び・室内室外遊び

製作

- 靴下型プレゼント／簡単！輪っかでリース製作／どんな模様にしようかな？サンタのブーツ

歌

- おほしがひかる／ちいさいひつじが／ゆめのなか

絵本

- かんかんかん／はこ／ぱかつ

手遊び

- トントントントンひげじいさん／いとまき／てんぐのはな

室内室外遊び

- 新聞紙にアタック！／カラフルひもくらべ／まつぼっくりを投げてみよう

行事

- 世界人権デー（12/10）
- 正月事始め（12/13）
- 冬至（12/22頃）
- クリスマス（12/25）
- 大晦日（12/31）

食育

- 噛まずに飲み込むことのないように、一緒に食べながら口を動かし、真似できるようにする。
- 保育者が色々な食材を美味しそうに食べ、興味を惹く。
- 口腔機能の発達や食事の摂取状況に応じて、離乳完了期までの段階を追って離乳を進めていく。
- 食べている口元や頬の動きをよく観察し、しっかり噛んでいるか確認する。

地域と家庭との連携

- インフルエンザなどの感染症の発生状況などをお知らせし、健康管理に気をつけてもらえるよう呼びかける。
- 子どもの体調の変化などに注意し、送迎時やおたより帳を通して様子をお知らせする。
- 朝晩は気温が低くなるため、調節できる衣服を用意してもらうが、室内は暖かいことを伝え、厚着をせずに動きやすい服装で過ごせるように呼び掛ける。
- 離乳の状況を細かく伝え、コップやスプーン、フォーク等の使用状況を確認し、共通理解を図る。

自己評価

- 気候や子どもの状態に合わせて、遊びの場所を含めた環境が十分適切であったかどうか。
- 感染症が疑われた時に適切な判断や対処、連携ができたかどうか。
- 毎日子どもが快の状態で長く過ごせるよう、スキンシップを取りながら向き合っていたか。
- 子どもの興味関心に答え、楽しさに共感して、丁寧な汲み取りができていたか。
- 遊具の落下等を予測し、安全面に留意しながら探索活動を行える環境を整えたか。
- 甘えを受け入れ、安心して生活をしたり遊べるよう丁寧な関わりができたか。
- 安全に体を動かして遊べる環境の中で、運動機能の発達を適切に促すことができたか。
- 発達に応じた個々の気持ちを受け止め、ゆったりと関わりながら情緒の安定に努めたか。